



Bauhaus Project



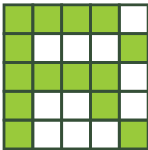
Architecture
Presentasion

architect
Saitou Shinji

Atelier if 一級建築士事務所



建築家と建てる家を、
身近に、手軽に



R+house

※建築家住宅(建築士の資格を有する独立した建築家により基本設計された住宅)
主要供給事業者9社における2017年度～2019年度新築供給数
(株)矢野経済研究所調べ 2020年8月現在
※本調査結果は、定性的な調査・分析手法による推計である。







担当建築家

齊藤 真二

Saitou Shinji

Atelier if 一級建築士事務所@神奈川

「建物がそこに住む家族の生活に対して、押し付けをしない様な配慮をする設計」を念頭に置き、そこに住む家族を中心にして、家族が住む家に合わせるのではなく、家がそれに合わせカスタマイズする姿が望ましいと考えています。

その中で、楽しさや高揚感などの「感性」を大事にした家づくりと一緒に考えて、居住空間を演出する事を大事にしています。

Profile

1971 年 東京都生まれ

1994 年 日本大学工学部建築学科卒業

1994 年 コーナン建設（株）設計本部

1996 年 設計事務所、ハウスメーカー、放浪等

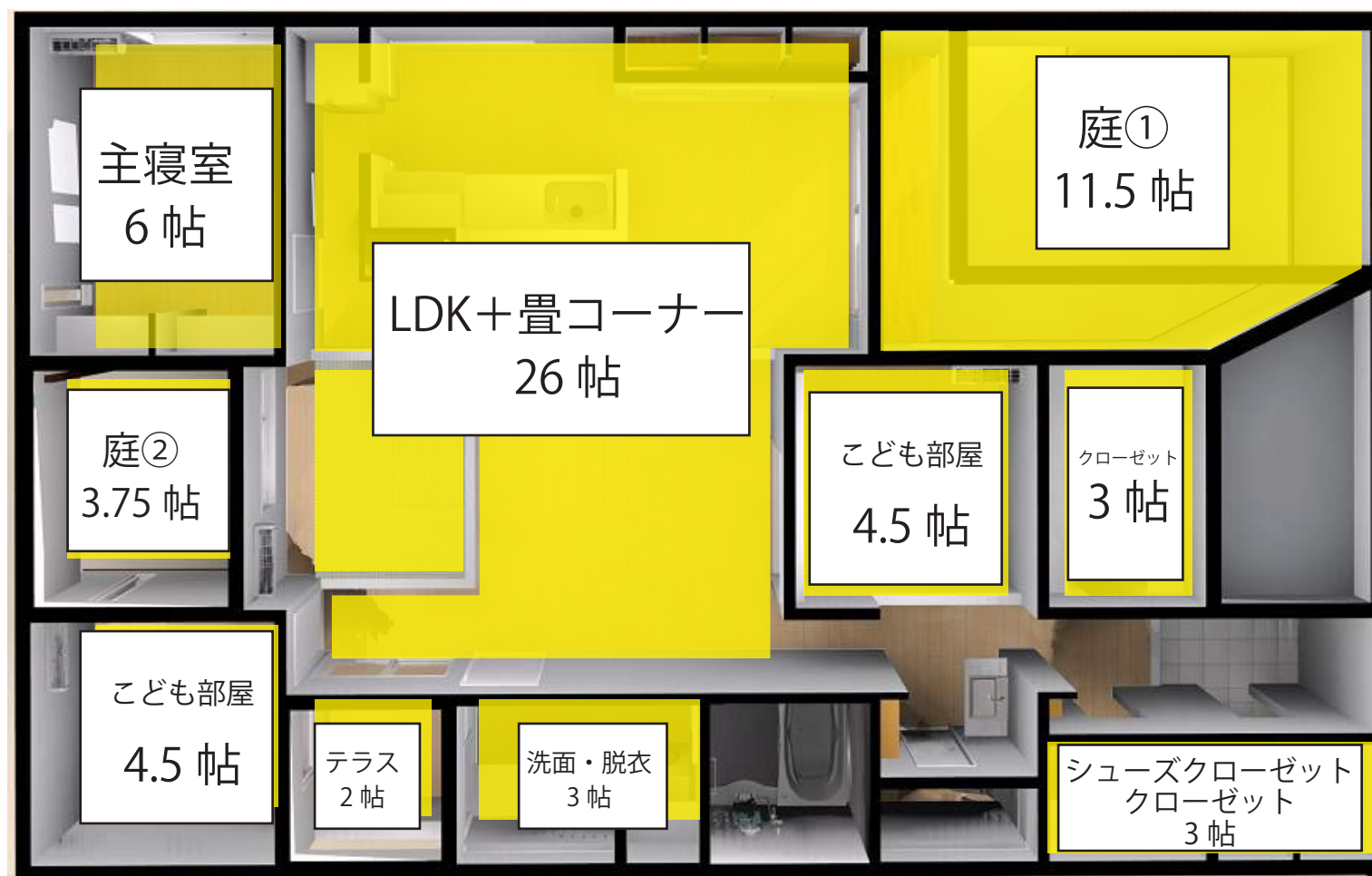
2001 年 住友林業 2×4（株）設計部

2003 年 Atelier if 一級建築士事務所設立

敷地面積 : 83.72 坪 (276.76 m²)

1階床面積 : 29.68 坪 (98.12 m²)

延床面積 : 29.68 坪 (98.12 m²)



輝き照らす（テラス）家

POINT①

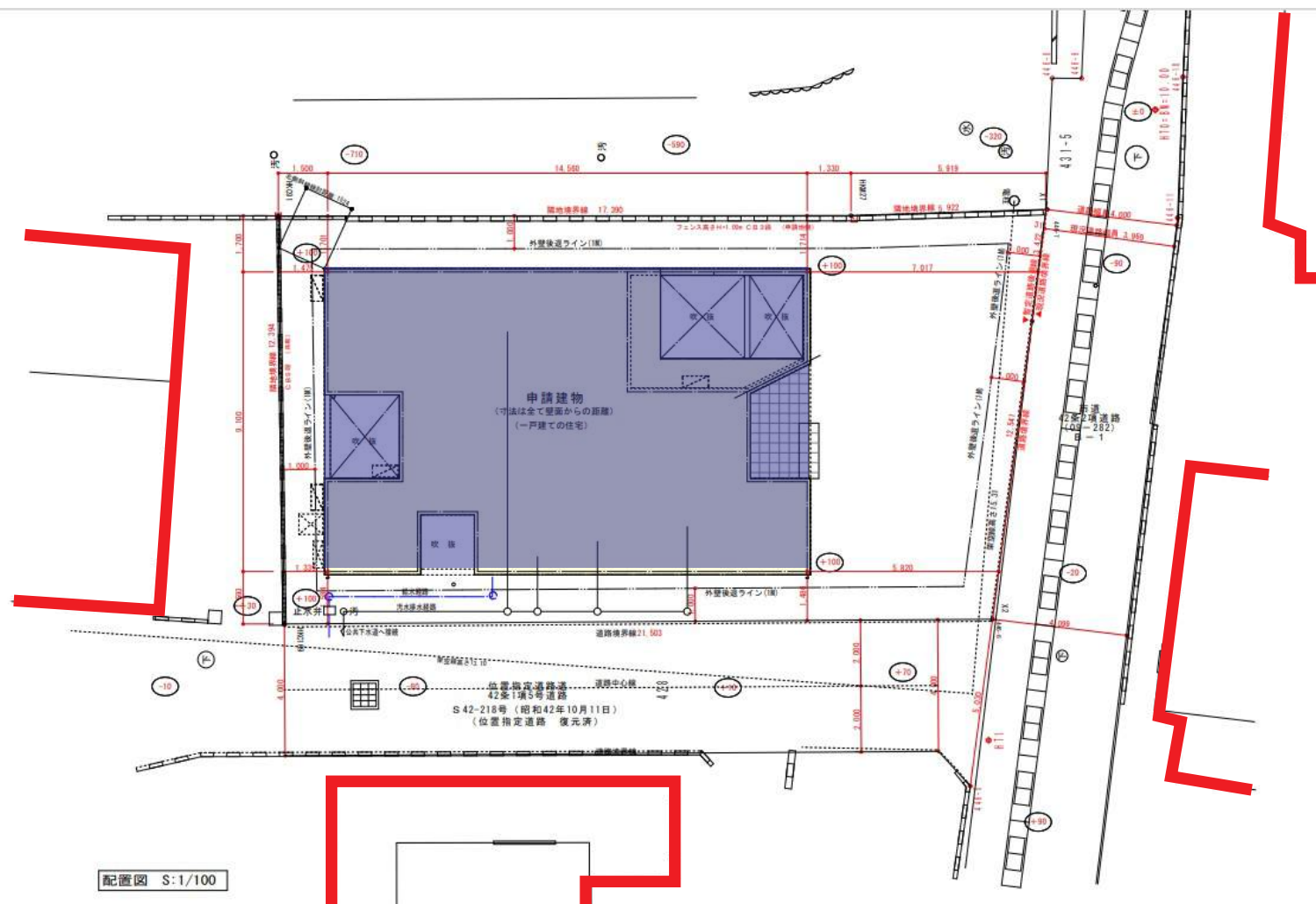
閉じた印象のシンプルな外観からは想像もつかない明るい LDK

POINT②

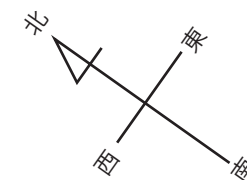
ゆったり寛げる『畳コーナー』と、お子様の宿題やテレワークにも使える
『スタディスペース』

POINT③

テラスを含む、3つの『光庭』



配置計画

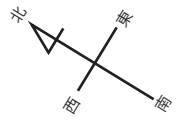


配置図 S:1/100

隣家の位置、玄関や窓の位置、高さ等も計測します。
そのデータをもとに建築家は現地を調査し、視線・風の
抜け方・光の入り方、隣家や周辺からの見え方等を総
合的に見て、その敷地に合ったベストな設計をします。

POINT

- 土地の広さを最大限、有効活用した建物配置と駐車計画
- 昔ながらの住宅街の街並みにも馴染むよう、近隣住宅とのバランスも考慮しつつ、外から見たときに室内の想像がつかないほど「閉じ」、プライバシーを十分に守れる外観デザイン
- 南側に窓が無いにもかかわらず、光の入り方をコントロールし、家全体に光が満ち溢れる空間設計



玄関ポーチ

来客動線（表動線）

家族動線（裏動線）

玄関からの動線



- ・玄関ポーチが欲しい
- ・サッカーボールやスパイクなどもしっかり収納したい
- ・玄関から洗面を通してリビングに行きたい

建築家 POINT
要望 + α の提案



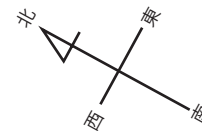
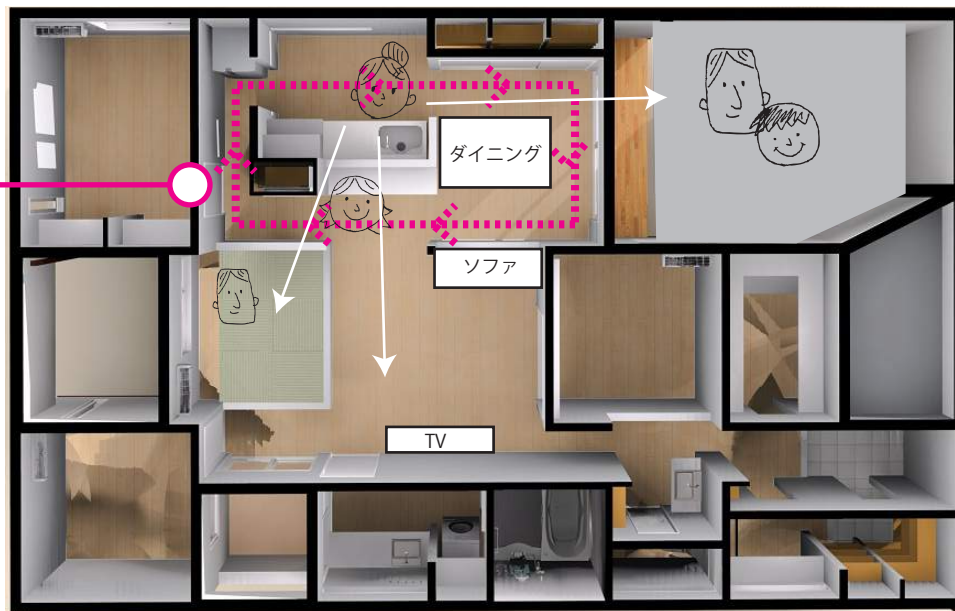
玄関からの動線は①玄関→SCL（シューズクローゼット）→収納の動線と、②玄関からそのまま LDK へ入る動線の二つの動線を確保しました。SCL の隣は上着やカップ・日用品のストックなども収納できます。
買い物から帰ってきて、すぐに使わない物は収納してリビングに入っていきます。

玄関ポーチを広めに取りました。
屋根をかけたので、雨の日でも焦らずに室内に入れます。自転車などもポーチに置けます。

洗面は、帰宅→手洗い→リビングに行きやすい動線になっています。
トイレから出た後の手洗いとも兼用しやすい場所に洗面を配置しました。

キッチンから全て見渡せる

行き止まりのない
回遊動線



LDK



- ・パントリーが欲しい
- ・キッチンからリビングが見えるように
- ・料理の配膳を楽にしたい

建築家 POINT
要望 + α の提案



玄関近くの収納には、使用頻度が低いものやストック類を収納してもらい、キッチンの後ろに使用頻度の高い食品や、物を収納していただけるようにしました。

キッチンはぐるぐる回れる、行き止まりのない動線で、ダイニングを横並びにすることで配膳も楽に行えます。

キッチンからリビングをはじめ、畳コーナーや庭も見えるので、料理中でも家族との会話が楽しめ、コミュニケーションが取りやすい配置にしています。

キッチン前のカウンターは、お子様のスタディスペースなどに使えて、学校関係の物などは隣の収納にしまえます。

料理をしながら対面で勉強を見たり、学校のことを話せたりします。

北側の外観

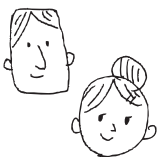


中庭から室内へ入ることもできる



道路側

3つの中庭（テラス）①・②の庭



プライバシーを保てる中庭と、外庭がほしいです。



一般的には「南側」が外庭になることが多いですが、**この土地は南側が道路なので家からの子供の飛び出しなどの安全面と、外からの視認性が気になります。**そこで、南東に①の屋根なしの中庭を創りました。キッチンから中庭が望めるので、料理中でも中庭を使っている家族とコミュニケーションが取れ、中庭へ視線が抜けて、より室内の広がり演出します。

十分な広さがあるので、**サッカーやBBQなどの外遊びを、外からの視線を気にせずに出来ます。**

②の庭は外を眺めながら畳に腰かけて勉強や趣味をしたり、北側の柔らかい光を感じながら寛いだりできる庭です。

外壁が腰高くらいまでしか開いていないので隣家からの視線は気になりません。

③の庭は・・・→次に続く

建築家 POINT
理想以上の提案力 / 光のコントロール



屋根があるので
安心して外干しができる

3つの中庭（テラス）③の庭

こども部屋、洗面脱衣室から
中庭に向けて視線が抜けて
解放感を感じられる。

道路側

建築家 POINT
動線・生活スタイルを考慮した設計



③の庭は洗面・脱衣室の延長線上にあり、洗濯物を干せるように屋根をつけています。
共働きでいらっしゃるの、雨が降ってきたから洗濯物を取り込みに・・ということが中々できないと思いますので毎日の洗濯でも、ゆとりを持っていただきたいと思いますので屋根をつけました。
布団を干すこともあると思いますので各部屋からアクセスしやすいようリビング側から中庭へ出れます。また「リビング」「こども部屋」「洗面・脱衣」から中庭に視線が抜けて、解放感を演出します。
また、②と③の庭があることで、主寝室と子供部屋の距離、子供部屋と脱衣室の距離ができて、物音などが気になりにくくなり、家族間のプライバシーも十分に保たれます。

室内への光の入り方も、南側に窓があれば良いと思われている方も多いですが、直接的な太陽光はストレスになります。
多方向から庭を介して光の入り方をコントロールすることで一見、窓が少ない家なのに驚く程、明るい家になります。

室内から外へ向けて
視線が広がる



LDK の中心で
家族とのコミュニケーションも
とりやすい



主寝室・畳コーナー

こども部屋は二つに分けて、LDK の一角に子どもが勉強できるスペースが欲しいです。

ゴロゴロできる畳が欲しいです。布団派なので、寝室と兼用でも良いかなとは思ってます。

建築家 POINT
無駄のない使いやすい間取り

まず第一に「ゴロゴロ寛ぐ」と「就寝する」はベストな環境が違うので、兼用してしまうと、どちらかのシチュエーションのときに使いづらくなってしまいます。

ゴロゴロ寛ぐ→誰でも使えるような場所（個室よりは OPEN な場所が使いやすい）

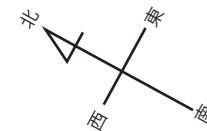
就寝→家族（もしくは夫婦）しか使わない場所（OPEN な場所より個室で落ち着ける場所が使いやすい）

そのため、畳コーナーは LDK に隣接させて、なおかつスタディスペースと兼用できるようにします。

お子様が遊ぶスペースとしても使えますし、お昼寝もできます。LDK から目が届く位置なので、お互い安心できます。

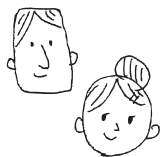
目の前は中庭なので、外への広がりも感じつつ楽しんでいただけます。





子ども部屋

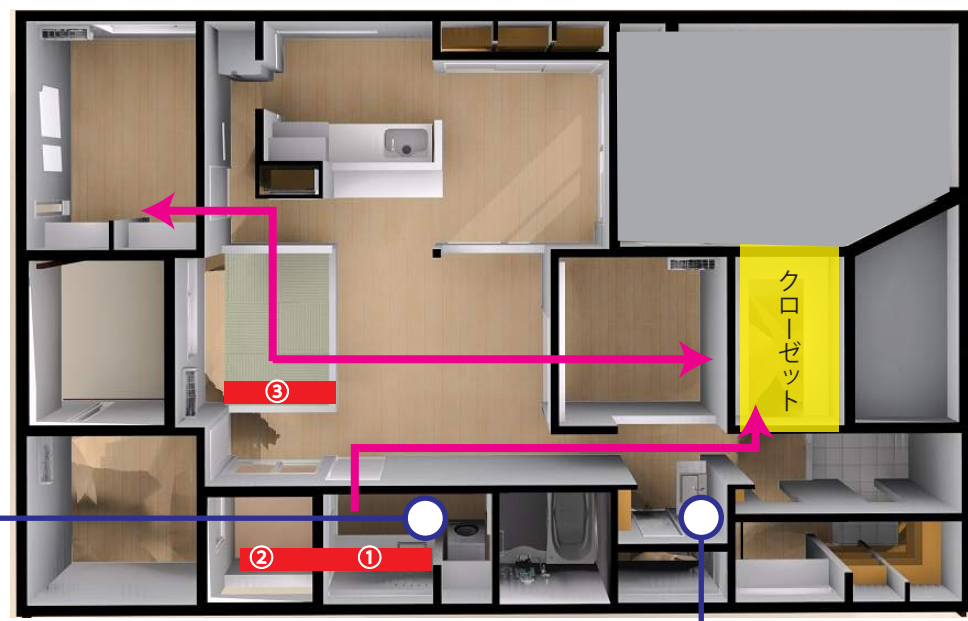
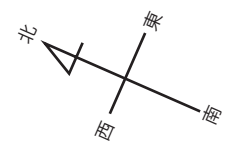
建築家 POINT
土地を最大限活かす設計



長男・長女で性別が違うので、子ども部屋は分けたいです。
将来子どもが結婚して遊びに来たときに、子どもの家族が、気兼ねなく使いやすいよう2階が良いかなと思ってます。
ただ生活は基本すべて1階で済むようにしたいです。



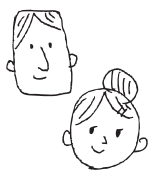
2階でも、もちろん良いですが、周辺環境、外からの家の見え方など、ここの土地のパフォーマンスを考えると、平屋にすることをおすすめしたいです。
2階建てにすることで、階段などのスペースや2階の部屋までのアプローチ（廊下）が必要なため、**32坪の2階建てと30坪の平屋では、あまり生活空間は変わりがないんです。コスト（予算）を最適な場所にかけるということも含め、平屋をご提案しました。**
気兼ねしないというところでは、**①の子ども部屋は両サイドに庭がありますので、隣の部屋からの音や気配を感じにくくなっています。**来客時の宿泊部屋としても使いやすいと思います。



プライバシー性を重視した洗面
・上履きを洗う・予洗いなどに使いやすい

家事動線（洗面・脱衣・収納）

手洗い・来客時などに使いやすい洗面
・帰宅して、すぐに手を洗いやすい
・脱衣などのプライバシー性の高いゾーンに入ることなく洗面を使える（来客時などに気兼ねしない）



家事がしやすい動線にしてほしいです。
朝の身支度のときに洗面を使う時間が重なるので、困るときがあります。



衣類などは基本的に家族の衣類をまとめて収納できるファミリークローゼットにしています。そうすると衣類の収納場所が、一カ所になるので時短になります。

洗濯を干す場所が①洗面脱衣（室内干し）②洗面・脱衣隣の中庭（外干し）③畳コーナーと3カ所あります。もちろん一カ所に干していただいても良いですが、寝室に収納したいものや、家族にそれぞれ取って行ってほしいもの等は③に干していただいて、①・②にはタオルなどの洗面で利用するものや下着を干す。というように選択肢が多いと家事もしやすいかと思います。

脱衣室の洗面は、予洗いなどに使いやすく、玄関近くの洗面は帰宅して手を洗ってリビングに入る、また来客の際もプライベートなゾーンに入られずに使ってもらえます。

どちらの洗面も朝の身支度のときに使えますので、朝の支度もスムーズになりますよ。

南側は道路沿いのため、外からの視認性を考慮し「閉じた」家の顔となっている。道路と家の間に駐車場を計画したので、玄関から子どもが飛び出して行っても、道路との距離があるため安全性が高い。

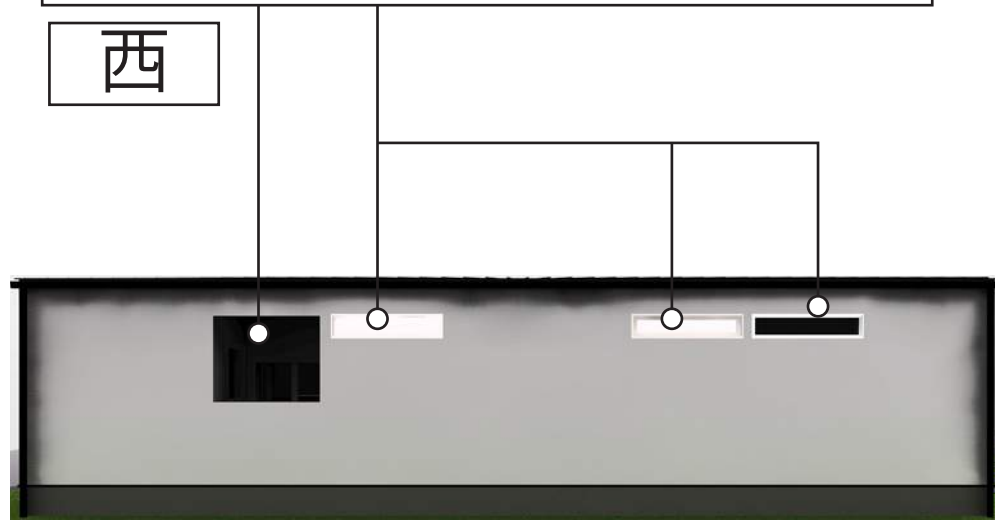
南



駐車場側

西側は隣家も近く、プライバシー性の高い水回りに位置するので上部に窓を設けて、光と風を採り入れ、隣家からの視線は入らないようにしている。
中庭の壁は視線の遮りと、西日を入れすぎない役割も兼ねている。

西



中庭の入口にもなっていて、ここから室内に入ることもできるが、室内が見えないように設計されている。
朝日が子ども部屋にしっかりと入るように窓を配置

東



北側は隣家が近いため、ほぼ窓がないが、中庭を介して柔らかく光が入ってくる。
家の外観デザインを損なわないように、家の裏側にあたる北側に室外機がくるように計算されている。

北



室外機などのスペース

熊本市風配図

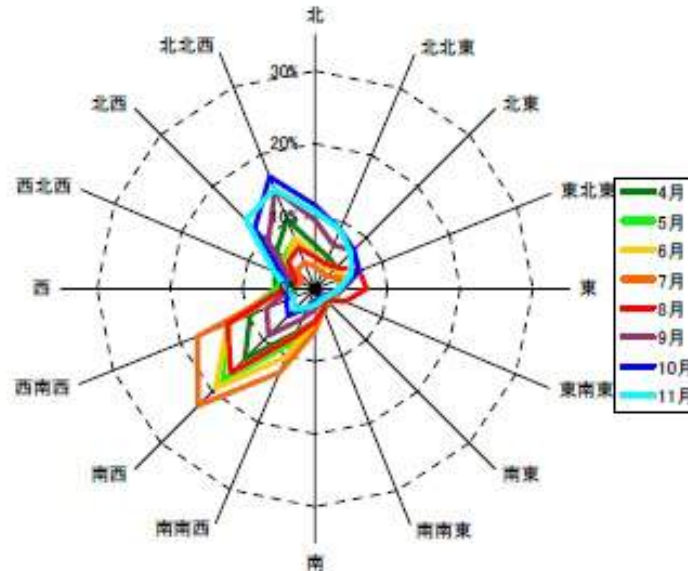


図4a 月別風配図(起床時)

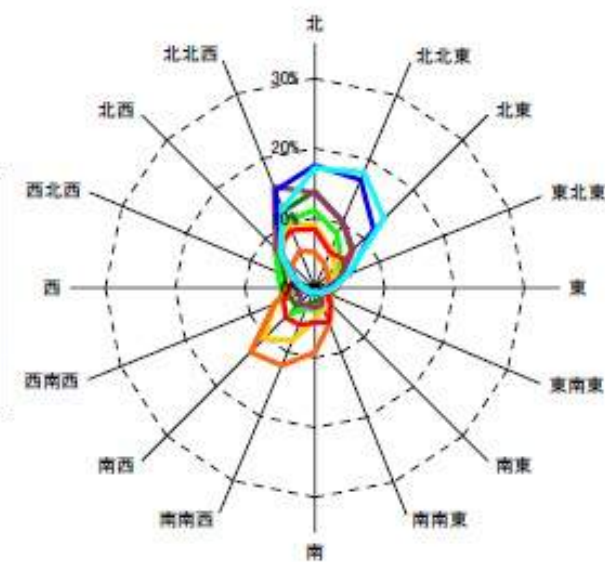


図4b 月別風配図(就寝時)

月毎気象データ数表

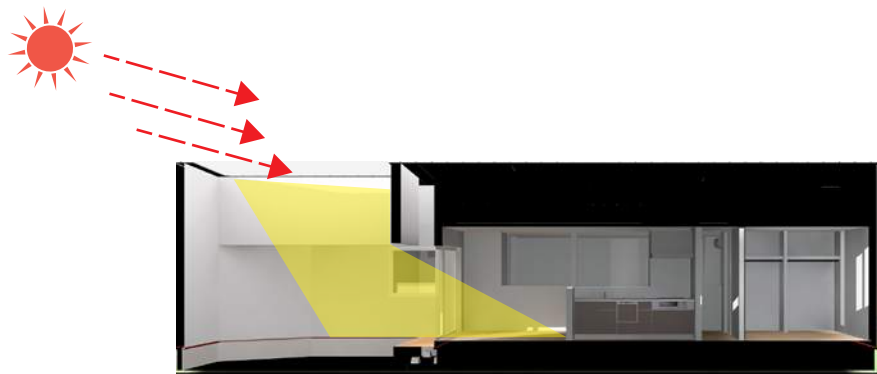
		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月	
		起床時	就寝時	起床時	就寝時	起床時	就寝時	起床時	就寝時	起床時	就寝時	起床時	就寝時	起床時	就寝時	起床時	就寝時
平均気温[℃]		17.1	12.4	21.4	16.7	24.5	21.0	28.2	24.9	29.2	25.4	25.6	21.9	20.2	15.8	14.4	10.3
平均相対湿度[%]		61	79	63	82	72	86	74	87	69	84	68	83	64	82	66	82
平均風速[m/s]		1.9	1.2	1.8	1.0	1.9	1.2	2.1	1.2	2.1	1.2	1.8	1.1	1.6	1.1	1.5	1.1
風向	最頻	南西	北	南西	北	南西	南西	南西	南西	南西	北北西	北北西	北北西	北北西	北	北北西	北北東
		14%	14%	18%	11%	19%	10%	23%	13%	16%	9%	15%	16%	17%	18%	15%	18%
	次点	北北西	北北西	西南西	北北西	西南西	北北西	西南西	南南西	西南西	北	北	北	北西	北北東	北西	北
		10%	12%	13%	10%	13%	10%	17%	12%	13%	8%	9%	14%	12%	17%	13%	17%
風向	次々点	西南西	北北東	南南西	北北東	南南西	北	南南西	南	南南西	北西	北西	北北東	北	北北西	北	北東
		10%	10%	8%	8%	10%	9%	13%	9%	7%	8%	9%	10%	12%	15%	11%	14%

風配図とは、各方位の風向および風速の頻度を表した図です。

建築家は周辺の建物や環境を実際に目で見て、データと照らし合わせながら風の向きや、入り方なども計算して「窓の配置」「窓の種類」「建物の配置」を決めていきます。

冬は部屋の奥まで光を取り込み暖かく、夏は窓から入る直射日光を避け、涼しく
自然の力を最大限活かしたパッシブ設計。

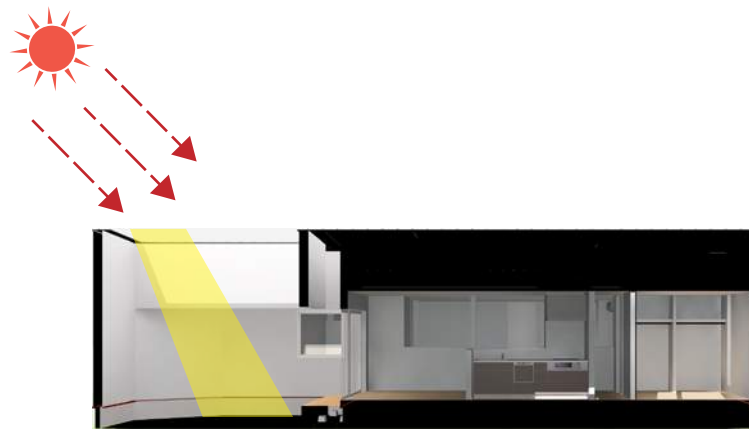
真冬午後12時



(冬至) 太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が低くなる為、太陽が西に傾く頃、窓から部屋の奥まで暖かい光を取り込むことができる。



真夏午後12時



(夏至) 太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が最も高くなる為、壁の位置や軒の出し方を計算し、日射を遮り室温の上昇を抑える。



夏と冬では太陽の位置が異なります。建築家は季節ごとに変わる太陽の動きも熟知した上で設計します。